

異国の風聞に関する文書を読む

史料 「歌日記 安政三年迄」(林家文書No.2418)

二月十五日、ある家のあるしに酒いたくのミて、さて(主)

よみたる哥

咲梅のにほひもそひてこのゆふへ(添ひ)

(酔ひ) 忍ひたるおもに春かせそふく(面)

二月十七日、川越へ例の役用ニ而参り聞之

御中陰ニ付、御家中方御月代之事

御足軽方二月十日迄 孝頭寺へ御忌、正月廿六日

大役人二月十五日迄 御葬、正月廿九日

諸士方以上三月五日迄 町方十三日戸へ

右、三月十日迄御中隠也

此頃人のいふ言に、去ル卯年紅毛國の君国としたかふとか、其名(従ふ)

フランス國より使者来りて我大御国の御為也といふて交易

を願ひ、且ようらハ州内十八ヶ国同盟●三拾ヶ国不残一統して国々をうはひとらんと(奪ひ)

計るよしいひて、右願ふ所の交易ヲゆるされすハ兵をむけんといひ(由)

ぬ、とまをす、我國にてハ今までゆきかひたる国の外は交易はゆるされさ

るよし、御返答うけ給はりて帰りぬとか、其ようらハ州之内、イキ(靡)

リス國最強大の勢をふるひて天竺・今の清國となひ(靡)

きしたかひたるよし也、又ある人のいふ、イギリス國より兵般七(船)

百艘、日 木(本カ)さして(指して)いてたるよし、長崎に來をる紅毛人のいひぬとそ(出で)

二月十六日、川越にて人のいふ、守殿の御固場浦賀沖に異国船

見えて、大筒の御備場、新に所々ニ御造立になるよし也、昇

平久しく打つゝきて武士たる人々さへおこたりたる世なれ(続きて)  
(怠り)

ハ、弘安のいにしへの天神風ならて、(で) 彼異賊の舟とも防へ

二枚目

(由無し) 其異賊ともハ  
きよしなし、しかもありふれたる軍伍と違ひて七数ヲ用ひ

貴賤ニかゝらすえらひし精兵也とそ、(開く) よりて清国にても上

陸させてかへりて打負たりとそきく、只我国にたのむ所

は神力方いやしきわなミらまで正武の生質と也けり

同十七日、川越へ例の役用にてまゐる道に、(参る) 富士の高嶺

霞いとしろ常よりもこと見えたるに、かの異賊らかこと思ひい

てゝよみたる其うた

ほのかすむ富士の嶺見てやえみしらも

高きみいつをはかりしるらん

永七貫弐百八拾六文

内永四貫文 源 八 へ打渡し  
長兵衛

引残り永三貫弐百八拾六文

此分、金三両壹分也 同役方受取

錢弐百廿九文 己立替 三月三日

矢嶋氏へ打渡ス

庚戌年

三月三日、(多) た事く役用の暇えても猶つとむる事のありて

入間郡谷中村へ行道のほとよめる

身は春にありとおもはぬこゝろなど

花をハさてもわすれさるらむ

三月四日、比企郡鎌形村長島氏の訴をとふにて

行道に岩殿山越にて

三枚目

おのつからゆき(行き来)、そしけき岩殿の(繁き)

やへ山こえに花さきしより(八重)  
(越え)

三月廿日とくおきいて(疾く)  
(起き出でて)

朝戸明て見るもゆたけしあつさゆ(豊)  
(梓弓)

春ふかみ草花にさくには(深み)

園生なる木々いつしかと夏のけしきになりぬ(気色)

しけりゆくにひ鏡葉そかひもなし(繁り)  
(甲斐)

ありにし花のかけもうつらす(影)  
(映らず)

三月晦日

海外新話五冊内三冊ヲ見る

廣東総督林則除(徐) 道光十九年、本朝天保十年ニ當ル

鴉片多葉粉ヲ焼、其灰ニ塩ニ石灰ヲ混し、躁躡して海へ捨ル

代金拾萬五百六拾万兩也(巻千カ)  
巻千三百拾七匁、四分三ヲ出スへし  
皆出し、百萬匁とアリ

英夷國都蘭頓イギリス ロントン※口偏が付く  
二十六艘ニ而清国へ寄セ 定海城ヲとる

壹千八百四拾年七月初四日 道光二十年六月初五日

英夷国女主名城喇

城下爹摸河テイムスカ 大橋長百八拾丈、幅四丈、中三所ニ燈臺ありて夜中行人

の便とす

伊里布コリタルフットウニモノハフキレイセイラ  
懲沸湯者吹冷壘

琦善 弱臣 傷弓之鳥畏曲木

貳千百万元 五息 初年 六百万元ヲ渡ス

四枚目

やよひつこもりによめる(弥生)(晦日)

おほたからえたちのことにいとまなみ(役)(暇)

むなしく花乃春もすきぬる

英吉利須国人共大船数●艘二打のりて、我国の

あたりこゝかしこにありて、運送舟を見てハ奪ひ

とるよし、此程人々のいふ、さるハ江戸へ入舟絶て多

くの人、食物にことかゝんをり、ものせん(折)巧(たくらみ)也なと

種々風説をまゝあるころす

舟たのミ寄来ちふえみしくなたふれむいきりす神かせの

かしこきことはしるやしらすや  
神かせからきめを見なんとや

四月十二日例の役用によりて川越へまゐりて

家にかへる道にして時鳥の鳴をきゝて

月清き卯月の空のゆふ風に

なく音身にしむ山ほとゝきす

嘉永三戌年三月十五日、阿蘭陀加比丹御礼之砌

奉申上候は、英吉利国※口偏が付く方交易之義、奉願候処、強而御断ニ

相成り候二付、無據軍艦差向申候由、阿蘭陀国義二百年

来別段